大井町立相和小学校　学校通信

そうわ通信７月号

【発行日】
令和５年７月 18 日
【発行者】
露木　光人

≪学校教育目標≫豊かな心をもち　自ら考え　たくましく生きる子の育成
～学び合い　高め合う　なかまづくり～

Nature Camp（林間学校）　大成功！　【令和５年７月５・６日】

若干天候が心配されましたが、4･5年生による Nature Camp（林間学校）が無事実施されました。昨年度から4･5年生合同実施となったため、5年生は2回目になります。さすがは経験者だけあって、4年生に行動を促す場面が多くあり、4年生も言われたことを行うのではなく主体的な言動が数多くあり、笑顔の多い学校行事となりました。

カレーづくり、夕食と進み、片付けのころに5年生のある児童が4年生に対し、「来年も、今年の経験を生かして頑張ってね。」と声を掛けていました。こうして、伝統は受け継がれていくのだと改めて感じた次第です。

２日間の様子について、学校HPの保護者専用ページにて、フォトアルバムが作成済ですので、詳細につきましては、そちらをご覧いただければ幸いです。保護者の皆様におかれましては、様々なご準備等にご協力くださり、本当にありがとうございました。今後も引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

「子育てアラカルト㉑　～ＳＮＳ問題は…～」

県レベルや町レベルで児童・生徒指導に関する研修会や情報交換会は、頻繁に実施されており、管理職や担当教員が出席し、学校全体で情報共有しているところです。

現在、話題となる内容としては、ＳＮＳ利用に係ることが多くなる傾向にあります。本校においても情報モラルについては、日々の学びの中で指導していますが、ほかにも児童と保護者を対象とした情報モラル教育も継続して実施しています。今のところ、本校には大きな課題が報告されていませんが、見えないところで実は根深い課題が潜んでいるかもしれないと思うと、油断はできません。過日、家庭教育学級等で情報モラルに関する研修を今年度も扱う方向であることを、ＰＴＡ文化保健委員の方から報告を受けていますが、ぜひ実施をお願いしたいと思います。

さて、保護者の方々は、お子さんのＳＮＳ問題を考えたときに、何を思い浮かべるでしょうか。**「嫌な思いをする」「怖い思いをする」**など、被害を受けることをイメージしませんか。ＳＮＳは、人と人とのつながりなので、お子さんが一方的に被害者になるとは限りません。つまり、**「嫌な思いを誰かにさせる」「怖い思いを誰かにさせる」**という加害の立場になることもあり得ることを想定しておく必要があるかもしれません。便利なものこそ、その使い方を定期的に振り返る機会を設ける家庭・地域・学校でありたいものです。

いよいよ夏休みだ！
～夏休みだからこそできることを～

7月 21 日(金)から、38日間の夏休みに入ります。子供たちは、どのような夏休みを思い描いているのでしょうか？

今年度は、久しぶりに午後のプール開放が行われるので、それを楽しみにしている子もいるでしょう。相和っ子は、アイデアあふれるものづくりを得意とする子が多いので、立体作品づくりにチャレンジする子もいるでしょう。また、本校の図書室に新たな本がたくさん配架されたので、読書に向き合う時間を多くとる子もいるかもしれません。いずれにしても、どのように計画を立て、どのように過ごすかは、夏休み明けの生活に大きな影響を及ぼします。自分自身で得意なことや苦手なことを、学年に応じて自覚し、何をすべきかを休みに入る前に考えるとよいと思います。

次の登校となる8月28日(月)に子供たちがどのような顔を見せてくれるのか、今から楽しみです。

Let's give it a try!!

３つの「あ」を身に付ける
～気持ちよく過ごすために必要なこと～

今年の始業式や入学式でも子供たちに伝えた3つの「あ」ですが、夏休み前のこの時期に、いったん振り返りをしてみます。

まずは、「ありがとう」の言葉ですが、普段からよく聞こえてきます。掃除等で環境整備している私の姿を見かけたときに、「校長先生、ありがとうございます」と、どの学年の子も言うことが多くなりました。素晴らしい成長です。

「あとかたづけ」の習慣については、まだまだやりっぱなしの状況も見ることがありますが、だいぶ意識が高まってきました。あと一歩です。

「あんぜん」の確認については、もともと意識が高かったところではありますが、引き続きよくできています。ただし、不用意に廊下を走ってしまうこともまだあるので、指導は続けていきます。

以上、6年生の意識が高いことが、学校全体に波及しています。何よりも教職員も見本となるべく背中を見せているところが、「チーム相和」を感じます。

フレキシブルな授業スタイルに取り組んでいます

現在の学びは、子供たちが主体的に取り組むものとなるよう、様々な工夫が取り入れられています。本校においては、授業の場づくりの工夫が必要であると考え、今までの授業スタイルに固執しない、フレキシブルな学びの場を模索しています。

これまでも何度もお伝えしているところですが、子供たちは本来、「できるようになりたい」「わかるようになりたい」「みんなでつくりあげたい」と願っており、知的好奇心や知的探究心が旺盛な存在です。だから「なぜ？」「どうして？」という言葉をよく発するのであり、そのことが「学び」そのものであると考えます。教師は、あくまでもその子供たちの想いをサポートする立場であり、ファシリテートする存在となる必要があります。

となると、教師の立ち位置や発する言葉の数や内容、子供たちの机の配置などをフレキシブルにしなければなりません。

今、相和小学校の授業スタイルは、変わりつつあります。授業参観で、ぜひご確認ください。

相洋高等学校和太鼓部による迫力ある演奏！　～家庭教育学級①～

今年の第1回家庭教育学級は、文化保健委員の皆様のご尽力により、学校公開と同日に実施され、芸術鑑賞の一環として、相洋高等学校和太鼓部の演奏を聴く機会を設けていただきました。

県西地区はもとより、神奈川県内でもその迫力ある演奏は有名で、この夏には関東大会や全国大会に出場する予定とのことでした。子供たちは、運動会や学習発表会等で、和太鼓にはなじみがあったと思いますが、その迫力に思わず身動きがとれない様子でした。やはり、一糸乱れぬ動きも含め、チームで一つのものを創り上げるということは尊いものです。

迫力ある演奏に、圧倒されました